

日本トルコ経済連携の 強化・拡大への期待

一般社団法人 日本経済団体連合会 日本トルコ経済委員会 [委員長]
株式会社IHI [代表取締役会長]

釜 和明

Kazuaki Kama



西洋文明とアジア文明が交錯する東西交易の十字路に位置するトルコはその地理的優位性を利用し、近年目覚ましい経済成長を続けています。過去10年間でGDPは3倍にも増加し、この先も継続的な成長が見込まれています。2023年の共和国成立100周年には経済規模で世界トップ10入りするという“Ambitious Plan”の達成に向け疾走を続けています。若く有能な労働力と外資導入規制の緩和が進み、世界各国の企業進出が目立っています。

そんなトルコと日本の関係は古く、オスマン帝国時代の1890年、小松宮訪土の答礼に来日したトルコの軍艦エルトゥールル号が帰途、現在の和歌山県串本町沖の海域で難破したとき、串本町の住民が約70人の乗組員の命を救った事件。それから95年後、イラン・イラク戦争中の1985年に、戦時下テヘランに取り残された日本人200余人がトルコ航空機によって救出された出来事。この2つの象徴的な事件は両国の強い絆を物語っております。

こうした信頼関係で結ばれたトルコにおいて、日本企業は1970年代からODAによる各種インフラ整備事業を行ってきました。また、近年の中間所得者層の増加を追い風に、金融、医療、電機・電子、食品など幅広い分野にも取り組んでいます。今後は、トルコ企業と協力してトルコのみならず周辺国のビジネスに取り組むこともさらに多くなると期待しております。

私が委員長を務めます経団連の日本トルコ経済委員会では2013年度は両国の首脳会談が年3回開催されたのに合わせて、年2回両国合同での経済委員会を開催しました。両国合同経済委員会が年に2回も開催されたのは両国の関係強化を示す歴史的な出来事です。

合同経済委員会は昨年5月にトルコ、10月に日本で開催し、5月の合同経済委員会では、安倍総理より日土官民連携の重要性に関するスピーチをいただきました。続く10月の合同経済委員会では、産業技術協力や日土EPAなどに関し議論が交わされ、速やかな交渉開始の必要性が日土双方から指摘されました。

昨年12月には経団連から日本政府に対し、EPA交渉の早期開始を求める緊急提言を提出いたしました。そして本年1月の安倍総理とエルドアン首相との首脳会談においてEPAおよび社会保障協定に関し、政府間交渉を開始することが合意されました。

本会談において「トルコと日本はアジア太平洋地域における最重要パートナーである」と両国で確認しました。さらなる政治・経済の連携強化・拡大が行われると確信しております。

このたびはトルコ特集ということで、私の出身地である長崎の名物料理「トルコライス」をご紹介します。名称の由来には諸説ありますが、アジアと西洋をつなぐ架け橋というトルコの地理的特徴を、1つの皿にピラフ（アジア）、スパゲティ（西洋）、そして中心に配置されたカツレツをトルコに見立てて表現しているところからきているというのが有力な説です。トルコが地政学的に重要な場所にあるということと、トルコと日本が良好な関係を継続しているという2つの側面を絶妙に表現する名物料理だと思います。

目覚ましい経済成長を維持し、豊富な投資機会を有するトルコ。私はこれからも日本とトルコの絆のさらなる強化に、少しでもお役に立てるよう努力して参る所存です。